

■研究・実践の課題（テーマ）

子どもケアセンターにおける「子育て応援講座：子どもの食について考えよう」の実施とそれを踏まえた「食」に関する保護者の悩みへの援助方法の研究」

■主任研究者 釜賀雅史

■共同研究者 坂鏡子、塚原丘美、安達内美子

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

1) 研究・実践の目的

①「食育」は、乳幼児期の子どもの健全育成上大きな課題である。子どもケアセンターを訪れる乳幼児の子育てをする親からも、多くの相談を受ける。

②名古屋学芸大学健康・栄養研究所と子どもケアセンターが連携を図り、乳幼児期の子育てをする親を対象にした講座を開催することを通して、乳幼児期の子育てをする親の育児不安を軽減させ、子どもの健全育成を図るための実証的研究を推進する。

2) 方法

①食育講座の概要

申し込み時点で0歳6ヶ月～1歳0ヶ月の子どもとその保護者を対象に、子育て応援講座「子どもの食について考えよう！」を実施した。但し、同一メンバーで年4回開催予定であったが、第4回目は降雪のため中止とし、年3回の開催となった。

参加者数

	日付	地域の親子				学生											計	
		総数		日進市内														
		親	子	親	子	幼4	幼3	幼2	幼1	子4	子3	子2	子1	管栄	メディア	院生		
子どもの「食」について考えよう！	5/20	11	12	10	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	37
	7/22	11	13	10	12	7	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	34	
	9/30	13	14	11	12	2	14	0	0	0	0	0	0	4	0	0	47	
計		35	39	31	35	9	25	0	0	0	0	0	0	10	0	0	118	
		74		66		44												

第1回 日時：2015年5月20日 「テーマ：離乳食は大人の仲間入り」

参加者：11組の親子

講師：安達内美子

場所：HB103 保育演習室（親の食育講座）

HB105 子どもケアセンター（子どもの託児）

第2回 日時：2015年7月22日 「テーマ：離乳食の摂り方と心の発達」

参加者：11組の親子

講師：安達内美子

場所：HB105 子どもケアセンター（親子同室での食育講座）

第3回 日時：2015年9月30日 「テーマ：離乳食の量と体の発育」

参加者：13組の親子

講師：安達内美子

場所：HB103 保育演習室（親の食育講座）

HB105 子どもケアセンター（子どもの託児）

第4回 日時：2016年1月20日 「テーマ：幼児食と家族の健康」

参加者：降雪の影響を受け中止した。

②プログラムの流れ

9:45～ 受付開始

10:00～ 親は講座へ（健康・栄養研究所が講師）、子どもは託児に（学生・保育士）

11:00～ 講座の終了、親が子どもを迎えに。学生は託児中の子どもの様子を親に伝える。

11:15～ 食に関する個別相談（健康・栄養研究所担当）

C棟食堂にて管理栄養学部の学生が考案したメニューで昼食もしくはおやつ（保護者の方の任意）

③役割分担

（準備）健康・栄養研究所と子どもケアセンターで、2014年度の評価をもとに、講座内容の企画・立案を行った。講座の内容については、2014年度の内容を継続する形とした。

（講座）健康・栄養研究所は、親の「食育講座」の講師を担当し、子どもケアセンター保育士1名が補助に入った。講座の間、子ども1名に対し、学生が1名ついて託児を行った。保育士が子どもの安全確保と託児をする学生の対応指導にあたった。第2回については、託児は行わず、親子同室での講座を実施した。講座終了後は、参加者アンケートに書かれた相談内容について、健康・栄養研究所が個別相談に応じた。

（終了後）個別相談の対応については、講師と子どもセンター保育士と一緒に検討し、相談にあたった。毎回の講座終了後、内容・進め方・相談事項について協議した。

3) 振り返り

- ・健康・栄養研究所（塚原丘美・安達内美子）……昨年と同様に、離乳期の児をもつ母親を学習者（1年通じて同じ）として、6月、9月、11月、1月の計4回の講義を行った。そのため、講座の1回目は離乳前期または中期、2回目は中期から後期、3回目は後期から完了期、4回目は完了期から幼児食前期という流れとなった。講座内容を1回目は離乳期全般について、2回目は心の発達と食事、3回目は体の成長と食事、4回目は幼児食と家族の食事とし、児の発育と離乳の段階に合わせることができ、参加者の満足度を上げることができた。しかし、4回目は降雪のため中止となり残念だった（後日、資料を送付）。単なる離乳食相談にならず、児のためにできること、母親自身のためにできること、家族のためにできることを考える機会になった。参加者の児の月齢に3ヶ月ほど幅があったため、児が同じ月齢の母親同士の交流、異なる月齢の母同士の交流があり、新たな気づきのきっかけになった。講座終了後、学生食堂での家族みんなで食べられる食事は、ほとんどの参加者が児と一緒に食べ、好評だった。回を増すごとに児らの成長がみられ、母親とそれを確認できた。
- ・子どもケアセンター（坂鏡子）……参加者アンケート結果をみると、具体性のある内容で、とてもわかりやすかったと好評であった。また、子どもの託児があることで、親が少しの間、子どもと離れて

学習ができる環境が整っていることは、日ごろ子育てに追われている親にとっては、じっくりと日常を振り返る機会になったことが伺えた。特に、0歳児の頃は、離乳食の進め方など、親の抱える悩みが多い実態があり、食に関する専門家に相談ができることが、育児不安の軽減につながっていると考えられる。